

## 交通事故で家族を亡くした子供の支援に関するシンポジウム

これは、**2022年11月1日(火)**に熊本市で開催された標記シンポジウムにライブ配信で参加し要旨を記録したものである。本シンポジウムは警察庁主催、文部科学省後援で毎年開催されている。

### ■ プログラム

- 主催者挨拶:後藤健二氏(警察庁交通局交通安全企画官)
- 講演:大岡由佳(おおおか・ゆうか)武庫川女子大学准教授
- 対応事例:京井和子(きょうい・かずこ)氏(グリーフサポートやまぐち代表)
- 体験談の発表:御遺族 4 名
- 質疑応答:コーディネーター 井上郁美氏(令和 4 年度交通事故被害者サポート事業検討会委員)
- 閉会挨拶:川本哲郎氏(令和 4 年度交通事故被害者サポート事業検討会委員)

### ■ 講演「交通事故で家族を亡くした子供のためのトラウマインフォームドな社会づくり」

- トラウマは、人間の関わりによって癒される。
- トラウマ(**T**rauma) = 心的外傷について、インフォームド(**I**nformed) = 十分に知識をもって、ケア(**C**are) = 支援する。
  - ① **Realize**:トラウマの影響を理解⇒②**Recognize**:トラウマのサインに気付く⇒③**Respond**:トラウマインフォームドケアの実践⇒④**Resist re-traumatization**:再びトラウマを招かない⇒①以降繰り返す。
- TICにおける「トラウマ」とは？

個々のトラウマは、出来事や状況の組み合わせの結果として生じる。それは身体的又は感情的に有害であるか、又は生命を脅かすものとして体験され、個人の機能的及び精神的、身体的、社会的、感情的又はスピリチュアルな幸福に長期的な悪影響を与える。
- トラウマ(交通事故等の犯罪被害)の結末:重症精神障害は 20 代 59%、30 代 48%、40 代 46%、50 代 38%、60 代 23%と、年代が若いほど精神健康面への影響は深刻。
- トラウマの見え方:**Fight** 戦う(イライラ、目を吊り上げて怒る、防衛的になる)、**Flight** 逃げる(回避する、不安、恐れ)、**Freeze** 固まる(麻痺する、孤立する、簡単に諦める)。
- TICの認識:トラウマの影響を受けた子供、大人、家族、コミュニティを支援するための理解を深め、より効果的な方法を提供することができるアプローチ。

### ■ 対応事例「きょうだいを亡くした交通事故被害者等への支援事例」

講師の京井氏は 2000 年 7 月に 4 歳の娘さんを酒気帯び運転の事故で亡くされている。

- **事例紹介 1**:「子どもの手記」発行(山口県子ども・子育て応援ファンド助成)
- **事例紹介 2**:子どもを失った親の場合。保護者の混乱⇄子どもの不安。子どもの世話やケアに手も気も回らない。子どもが支える側に回ることもある。
- 一人で抱えきれないグリーフ(喪失感)の長期化:生きづらさ、ストレス、心の病、自殺。
- 喪失体験が人に与える影響と理解:百人いたら百通りの反応がある。「正しい反応」というのはない。亡くした相手との関係性によって異なる。比較をしない、決めつけない。
- 周りの人ができること:同じ境遇の人と接する、吐き出す機会を持つ、誠実な関心を示す、傍にいます。

## ■ 体験談の発表

### ● 松本氏

#### ➤ 事故の概要

平成 15 年(当時 14 歳)、兄が新聞配達に向かう早朝、飲酒運転の車にひき逃げされ、亡くなる。

#### ➤ 心の支えや拠りどころとなった経緯や人等

親戚、担任の先生、友人

#### ➤ 家族を亡くした子供に必要なと思われる支援

遺されたきょうだいが暮らす家庭環境(プライベートの時間確保等)が整っているか、周囲の大人が気にかけてほしい。その上で必要だと思われる支援を一緒に考えてほしい。

### ● 竹山弦伸(げんしん)君・佳克(よしかつ)君

#### ➤ 事故の概要

平成 28 年(当時 8 歳・6 歳)、弟が自宅前の道路を手を挙げて横断中、脇見運転の車に衝突され、亡くなる。

#### ➤ 心の支えや拠りどころとなった経緯や人等

家族

### ● 中江龍生(りゅうき)氏

#### ➤ 事故の概要

平成 24 年(当時 27 歳)、妹が集団登校の列を引率中、無免許運転の車に衝突され、お腹の中にいた当時 7 ヶ月の赤ちゃんとともに亡くなり、ほかにも二人の小学生が亡くなった。

#### ➤ 心の支えや拠りどころとなった経緯や人等

事故後の活動を通じて知り合った遺族や被害者の方。

#### ➤ 家族を亡くした子供に必要なと思われる支援

親への支援が多く見られる中、遺されたきょうだいの集いを定期的に行うことが大切。

(以下略)

以 上